

週刊センターニュース No.141



第 141 号 (2007 年 1 月 15 日) 毎週月曜日発行
発行：金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL：http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

第 141 回共同学習会のご案内

日時：2007 年 1 月 18 日 (木) 16 時 30 分～18 時

場所：角間キャンパス総合教育棟 2 階大会議室

テーマ：「今年度の大学・社会生活論（環境教育）を振り返る」

趣旨：今年度から開講が始まった大学・社会生活論の環境教育の授業担当者にお集まりいただき、今年度の授業を振り返り、来年度に向けた改善点等を議論する。学生の出欠管理など、環境教育の授業内容ばかりでなく大学・社会生活論の授業全体に関わる課題等についても議論したい。

現代 GP IT 教育推進プログラム 第 2 回シンポジウムのご案内

平成 16 年度文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）に採択された「IT 教育用素材集の開発と IT 教育の推進」が、今年 3 月に終了することになりますが、この取り組みを継続・発展させることを企図し、講演とこれまでの取り組みについての報告を含めたシンポジウムが、2 月 7 日自然科学系図書館 1 階大会議室で開催されます（詳細は<http://www.el.kanazawa-u.ac.jp/symp02/>をご参照下さい）。上記現代 GP においては、本センターも、e-Learning 教材作成支援、ポータルサイト導入など ICT 活用による学生支援・教育支援体制の整備など、総合メディア基盤センターと共同で事業を推進しております。ご関心のある方は、是非ご参加下さい。

【プログラム】 (受付開始 12:30)

司会進行 岩原正吉 (金沢大学総合メディア基盤センターセンター長)

13:00～13:15 開会の挨拶 林勇二郎 (金沢大学学長)

13:15～13:30 現代 GP の目的と今後の政策

13:30～14:15 招待講演 1 e ラーニングの質の向上と今後の展開

清水康敬 (独立行政法人メディア教育開発センター理事長)

14:15～15:00 招待講演 2 信州大学における全学 e-Learning 活用教育

山本洋雄 (信州大学全学教育機構・教授)

15:00～15:50 ポスターセッション・学生 e-Learning 作品コンテスト作品紹介

会場：金沢大学自然科学研究科ホール

15:50～16:10 内部講演 1 金沢大学における IT 教材作成例 (1)

国本浩喜 (金沢大学大学院自然科学研究科・教授)

16:10～16:30 内部講演 2 金沢大学における IT 教材作成例 (2)

澤田茂保 (金沢大学外国語教育研究センター・教授)

16:30～17:10 内部講演 3 金沢大学 IT 教育推進プログラムの取組みとその成果

鈴木恒雄（金沢大学総合メディア基盤センター教授）

17:10～17:40 「学生 e-Learning 作品コンテスト」表彰式

鈴木恒雄（金沢大学総合メディア基盤センター教授）

17:40～17:50 閉会の挨拶 橋本哲哉（金沢大学副学長・情報担当理事）

18:00～19:00 情報交換会（会場：金沢大学自然科学研究科生協食堂）

【連絡先】金沢大学 IT 教育推進プログラム・IT 教材作成支援室

電話 076-264-6079 E-mail: it-sien@el.kanazawa-u.ac.jp

英国での学生支援について - THES AWARDからの紹介 -

英国で高等教育関連の情報を提供している The Times Higher Education Supplement(THES, <http://www.thes.co.uk/>)をご存知だろうか。地域別（全世界、欧州、北米、その他）、分野別（自然科学、人文科学、医科学、社会科学）などで世界の大学ランキングを発表している機関で、高等教育関連の新聞を定期的な発行も行っている。一般的には、上記ランキングの発表時に高等教育関係者を中心に話題になるが、この THES はそのほかにも英国の大学の活動に対して 18 分野に渡って調査を行い、賞を与える形でそれらの活動を公表している (<http://www.thes.co.uk/Awards/2006/>)。高等教育機関全体としての大賞や研究活動、地域貢献への賞もあるが、今回は、学生への経済的支援パッケージ大賞 (Outstanding Student Financial Support Package) と障害学生支援大賞 (Outstanding Support for Students with Disabilities) について紹介させていただく。2006 年度に学生への経済的支援パッケージ大賞に選ばれたのは EDGE HILL UNIVERSITY (<http://www.edgehill.ac.uk/>) で、単なる給付ではなく、学生の学習と関連付けた一連の奨学金制度（経済的困窮度の高い家庭からの学生に最高で年間 1,000 ポンドまで支給される）により受賞となった。その一部を紹介すると、Edge Hill の progression bursary” と呼ばれる奨学金制度は、金額にするとわずか 100 ポンドにしかならないが、学生は、この額を得るために自らの学習進捗度を測るアンケートに答え、コースからの脱落度を見極め、問題点を解決するための個別指導を受ける必要がある。もう一つの “facilities card” (200 ポンドが獲得できる) では、学生の書籍購入、印刷、コピーを支援する。このように、個々の学生の状況に合わせたテーラーメイドの奨学金を学生の学習へのやる気を結びつけるという仕組みとなっている。障害学生支援大賞に選ばれたのは、MANCHESTER UNIVERSITY (<http://www.manchester.ac.uk/>) で、HIGHER EDUCATION ACADEMY により支援されている障害学生支援向けサイトである www.disabilitytoolkits.ac.uk を有効に活用した取組で受賞となった。このサイトによって学生は、障害者に親切な職員がいる大学を探することができるし、また、大学職員も障害者差別禁止法のもとでどのような対応が求められるかをチェックできる。またチューターと呼ばれる個別に障害を持つ学生に対応するスタッフが学生の要望を知ることが出来る仕組みも備えている。

このような海外での学生支援の取組については、あまり情報が入ってこないが、THES では、Web 上の情報、定期刊行物などでそれらについても取り上げており、貴重な情報源である。

（文責 教育支援システム研究部門 堀井祐介）